

家族のためではなく、 自分の人生を楽しむ仕事をすればよかった

第二の人生をどう生きるか考えよう

人生100年時代とすると、65歳で定年退職したとして、その先まだ35年の人生が待っています。35年は20歳から55歳になるまでの時間と同じですから、そう考えると定年退職をしても、これまで働いてきたのと同じくらいの時間が続くことになりません。ですから第二の人生をどのように生きるかも考えていかななくてはなりません。

好きなことを仕事にしてきた幸せな方は、細くでもいいですから、ぜひその仕事を続けていきたいと思います。いっぽうで家族を養うため、家計の足しにするため仕事を続けてきたという方も多いと思います。生活の糧を得るため仕方なく仕事を続けてきた場合でも、これまでの仕事人生で培った知恵を生かして社会に貢献すると考えれば、第二の人生も有意義なものにできるのではないのでしょうか。

定年後だからこそやりたいことができる

なかには定年退職してから本当にやりたかったことを仕事にされている方もいます。知り合いにも、65歳まで会社で働き、定年退職した後、町長選に立候補した人がいました。いきなりこのことで家族もびっくりしたそうですが、残りの人生は故郷のために働きたいとずっと考えていて、トップになり町をよくしていきたいというのがやりたかったことだったそうです。

家族を養うために働き、親の介護と看取りも経験し、その体験も生かして町に貢献したいという熱い思いからの挑戦で、見事に当選し、今はイキイキと町政に取り組んでいます。こうした第二の人生はまさに理想的といつてよいでしょう。

若い世代が思いもつかないような発想、感性、判断力といったものが高齢者には備わっています。それまでの人生で培ってきた経験や知識があなたにもあります。その財産を先の人生に生かさない手はありません。ぜひ生涯現役の気持ちを持ち続けてください。生涯現役の気持ちを失わずにいることは生活に張りをもたらししてくれます。毎日がイキイキとしていることは健康長寿の秘訣でもあります。